

街道沿いに栄えた物流拠点

「弘部野遺跡」

昭和56・57・61年度に、今津町下弘部から上弘部にかけての水田地帯で行ったほ場整備に先立つ事前調査によって、飛鳥時代から奈良時代（7～8世紀代）の弘部野遺跡と呼んでいる集落跡が発見されました。

これまでに発見されている建物跡は、半地下式の竪穴住居30棟と地上式の掘立柱建物20棟以上などがあり、大まかには前者は飛鳥時代、後者は



▲弘部野遺跡（掘立柱建物跡）

奈良時代を中心としたものです。

写真は、現在調査を進めている字南樫地区で見つかった、柵で区画された中に比較的大型の掘立柱建物が少しずつ位置をずらしながら、3回建替えられた様子です。古代の建物は、地面に穴を掘って、直接柱を埋め込んでいますので、建てられた場所の土質にもよりますが、30年前後で建替えが必要だったようです。建物の年代は出土した土器から、奈良時代の全般を通してのもので、同一場所に同規模の建物を100年近く維持していく必要があったものとみられます。

また、これまでの出土品の中で特に注目されるものに、内陸部の遺跡では、ほとんど出土しない製塩土器（海水を煮詰めて塩を作る容器）や古代製鉄の原料となる2～3センチ大に小割りした鉄鉱石などがあります。

編集後記

目の前で握り拳を作ってみる。今、握りしめているものは…「細菌やウイルス！」と言われるほど、私たちの身の回りには、無害有害含め驚くほどたくさんの細菌やウイルスが存在します。滋賀県でも感染者が確認された新型インフルエンザ。学校の休校やイベントの中止など、市民生活に大きな影響を与えました。今ではマスク姿が逆に目立つほど、落ち着いた感のある新型インフルエンザ騒動。品切れが相次いだマスクも購入できるようになるなど、冷静さを取り戻し、インフルエンザに対する危機感も薄れつつあります。「ノド元過ぎれば…」になりがちですが、インフルエンザは、「ノド」に来るまでの予防が大切。国内では終息の方向にあると耳にしますが、油断は禁物です。くれぐれも、今握りしめた手を洗うことと、うがいをお忘れなく。（広報担当〇）

古代において、塩や鉄は、どこでも作れるものではなく、原料の入手しやすい地域の特産品として、都に納められていました。奈良の平城京から出土する若狭国からの荷札木簡の多数は塩で、大量の塩が年貢として都に送られていたことがわかっています。これらの塩は弘部野遺跡内を縦断していたと考えられる北陸道を陸路で、琵琶湖の水運を利用して奈良の都へ送られていたと考えられます。弘部野遺跡の東部に展開する弘川遺跡からは、多数の倉庫群が発見されており、塩の運搬や保管で、大きな役割を担ったとみられます。

また、奈良時代の文献である『続日本紀』天平宝字6年（762）に「大師の藤原惠美朝臣押勝近江国浅

井・高島二郡の鉄穴を各一カ所賜る」と、高島の製鉄に関する記載が登場し、奈良時代の有力な官人・貴族たちが製鉄に関与していたことがわかります。高島市北部では、海津大崎で鉄鉱石の露頭がみられ、古代の製鉄遺跡も多く発見されています。弘部野遺跡の南に位置する饗庭野丘陵にも、古代最大級とみられる東谷製鉄遺跡が存在しています。

この様に、古代の政治・経済・文化を創造することに欠かせない必需品を都に安定供給する場所に位置する弘部野遺跡は、単にその仕事に従事した集落というよりも、何らかの公的な役割（駅家等）を担っていた可能性が今回の調査で高くなったといえます。（文化財課）



お知らせ
拡大版

タウン
トピックス

暮らしの
情報

みんな
で575

消費生活
省エネ長者

教育委員会

健康生活

びよっ
ぽん

国保年金

図書館

窓口だよ

歴史散歩

市内最大規模の古墳群

北牧野古墳群・西牧野古墳群

マキノ高原を流れる知内川^{ちない}の西側に広がる山の中には、6世紀代を中心とした北牧野古墳群や西牧野古墳群、伏ノ木古墳群、青地山古墳群などの古墳が存在します。古墳の総数は200基以上を数え、高島市で最大規模の古墳群です。特に、北牧野古墳群と西牧野古墳群はその規模が大きく中心的な存在と位置付けられています。

北牧野古墳群は、現在のマキノスキー場駐車場周辺に広がる古墳群です。その数は、消滅したものを含めると100基以上とされています。現在、残存する古墳はすべて円形（円墳）で、埋葬施設は「横穴式石室」と呼ばれる石を積み上げて造られたものです。

北牧野古墳群の南西には、西牧野古墳群が存在し、47基の古墳が確認されています。その中の一つに斉頼塚古墳があります。直径14mの円墳で、古墳の南東側に横穴式石室が



▲斉頼塚古墳

開口しています。この石室には、県内で唯一九州地方の古墳に見られる「石柵」と呼ばれる張り出しが造られ、高島と九州とのつながりが考えられます。

また、昭和43年には同志社大学考古学研究室の調査により、この周囲には古代の製鉄遺跡が分布することが明らかになっています。このことから、斉頼塚古墳を中心とした西牧野古墳群や北牧野古墳群の被葬者は、朝廷に鉄材を供給する専門技術者の集団と密接な関係にあったことが想

定されます。

マキノ地域の古墳群は、湖西でも最大規模の古墳群であることから、当該地の地域史を考える上でも極めて貴重な古墳群といえます。

（文化財課）

訂正

歴史散歩No.58「近江大溝藩と若狭小浜藩」の記述において、一段目十行：梅原村・十一行目：木津村・米井村・二段目一行：船木村・押戸村の「村」については、「村内」と訂正します。

高島市古代史フォーラム

▼日時 11月28日（土）

13時～17時15分

▼会場 アイリッシュパーク
ガリバーホール

▼内容

○特別講演

「継体天皇とその時代」倭国の国際的環境と継体を支えた豪族」

井上 満郎さん

（京都産業大学・
京都市歴史資料館館長）

○記念講演

「鴨稻荷山古墳と6世紀の古墳像」

高松 雅文さん

（大阪府立近つ飛鳥博物館）

「継体期の近江の古墳」

辻川 哲朗さん

（滋賀県文化財保護協会）

○討論会

井上 満郎さん

高松 雅文さん

辻川 哲朗さん

水谷 千秋さん

白井 忠雄（堺女子短期大学）
（高島市歴史資料館）

編集後記

秋は彩に満ちた季節ですね。稲の黄金、柿の橙、蕎麦花の白など、人の営みも自然と調和し、秋の彩りを豊かにしてくれます。秋も深まり、朽木小入谷の雲海もそろそろ姿を現します。雲海は、地形条件と気象条件が重なった時にしか見られない壮大な自然絵巻。自然が織りなす神秘的な調和と、刻々と変わりゆく朝の風景を眺められるのは、早起きのご褒美です。最近、大人の早起きがストレス対策として注目されています。朝時間を趣味や知識の向上などに有効活用する「朝活」というのも話題になっています。朝にちょっとした楽しみをプラスして、いい朝のスタートを切りませんか。そのため、まず夜時間の使い方の改善が必要です。その第一歩は、今日、早く寝ることです。

（広報担当〇）

発行／高島市 編集／企画部秘書広報課

〒2400-1501 滋賀県高島市新旭町北畑56番地

0740(25)8000

http://www.city.takashima.shiga.jp

info@city.takashima.shiga.jp



▲安曇川駅前発掘調査の様子（昭和51年）

拡大版
市長の手帳

タウン
トピックス

子育て

安心安全

消費生活
省エネ

みんな
575

暮らしの
情報

教育委員会

健康生活

元気生活

国保年金

びょういん
だより

図書館

窓口だより

歴史散歩

1600年前の拠点集落

安曇川町南市東遺跡 下五反田遺跡

JR安曇川駅周辺には、弥生時代から中世にかけての遺跡である南市東遺跡と下五反田遺跡があります。これらの遺跡が最も栄えた時期は、今から約1600年前の古墳時代とされています。

本海を通じた大陸との交流が盛んであったことを示し、同じ時期の集落と比べても、生産と流通が一定以上のレベルにあった先進的な集落であったと考えられています。

点集落の一つともいえます。この他にも、この周囲には、八反田遺跡や東窪田遺跡など古墳時代の集落跡があり、古墳時代の人々の営みは、JR安曇川駅一帯から西側にかけて広がっていた様子が想定されます。

南市東遺跡では、当時の日本列島内でも早い段階で、竪穴住居とよばれる建物内に竈を設置していたことがわかっています。また、建物跡からは、初期須恵器、陶質土器、軟質土器とよばれる朝鮮半島系の土器が多く出土し、大陸との交流があったことを示しています。

また、滋賀県下の類似する遺跡としては、湖北の旧高月町高月南遺跡や湖南の守山市下長遺跡、湖東の旧安土町小中遺跡群などが上げられる程度です。

なお、これらの遺跡の出土品は、高島歴史民俗資料館（月・火休館）でご覧いただけます。（文化財課）

下五反田遺跡は、南市東遺跡の北西約500mのところであり、南市東遺跡と同じ様に、初期的な竈や大陸系の遺物、製塩土器や鍛冶を行った痕跡が見つかっています。日

また、滋賀県下の類似する遺跡としては、湖北の旧高月町高月南遺跡や湖南の守山市下長遺跡、湖東の旧安土町小中遺跡群などが上げられる程度です。



▲南市東遺跡出土土器

このことから、琵琶湖周辺に所在する5世紀代の拠点

編集者のつぶやき

夏本番となり、暑苦しい日が続いています。そこでおすすめしたいのが、ステテコです。近頃は種類やデザインが多様に。先日、初めて履いたところ、涼しく快適で愛用しています。ステテコの素材にも使われるクレープは高島の特産品です。ステテコで快適な夏を過ごし、地元産業に貢献しませんか？

（広報担当S）



▲鴨稻荷山古墳家形石棺（6世紀前半）

継体天皇 千五百年の謎

継体の生誕地・高島から探る

高島を生誕地とする継体大王（継体天皇、男大迹王）は、西暦507年に樟葉宮（現在の枚方市）で即位したと伝えられています。それは、今から約1500年前のことです。

『日本書紀』によると、継体大王は、応神天皇の5代目にあたる子孫で、彦主人王の王子とされています。彦主人王が、近江国（滋賀県）の高島の三尾の別邸に住んでいた時に、越前国（福井県）から振媛を妃（妻）に迎えます。そこで継体大王が、生まれたとされています。

高島市には、継体大王の生誕地としての伝承や、関連する遺跡が多く残されています。継体大王の父、彦主人王の墓所と伝えられる「田中王塚古墳」・振媛が継体大王を出産した時にもたれたかかったとされる「安産もたれ石」・継体大王を出産した時の胞衣を埋めたという伝承が残る「胞衣塚」・金銅製の宝冠・飾履など豪華な副葬品がおさめられていた「鴨稻荷山古墳」が存在します。鴨稻荷山古墳の被葬者は、越前をはじめとする北陸諸国や、大和・河内の有力者と関係を持ち、継体大王の擁立に深く関わった豪族の墓ではないかと推定されています。

今回の高島古代史フォーラムは、一連のまとめとして、「継体天皇千五百年の謎」をテーマに、継体大王の即位の経緯や、継体大王を支援した勢力について文献史料や考古学的見地から考察し、継体大王の謎に迫ります。ぜひ、ご参加ください。

（文化財課）

高島古代史フォーラム

「継体天皇 千五百年の謎」

「継体の生誕地・高島から探る」

▼日時 10月31日（日）
10時～17時

▼場所 藤樹の里文化芸術会館

▼内容 特別講演
「文献史料から見た継体天皇の即位事情」
塚口義信さん
（堺女子短期大学 名誉学長）

▼講演Ⅰ
「鴨稻荷山古墳と継体大王」
高橋 克壽さん
（花園大学教授）

▼講演Ⅱ
「考古学から見た継体支援勢力」
中司 照世さん
（元福井県埋蔵文化財調査センター所長）

▼講演Ⅲ
「坂田・野洲の古墳と継体大王」
辻川 哲朗さん
（財団法人滋賀県文化財保護協会主任）

▼公開討論会
コーディネーター
水谷 千秋さん
（堺女子短期大学 准教授）

▼定員 400人（先着順）

▼参加費 500円（資料代込）

▼受付 9月15日（水）から

関連事業

継体天皇関連遺跡等の
現地学習会

▼日時 10月30日（土）
13時30分～17時

▼場所 鴨稻荷山古墳、
田中王塚古墳など

▼定員 50人（先着順）

▼参加費 100円（資料代込）

▼解説 水谷 千秋さん
（堺女子短期大学 准教授）

▼受付 9月15日（水）から

★詳しくは、文化財課までお問い合わせください。

問・申文化財課

☎（32） 4467
FAX（32） 3568

編集者のつぶやき

表紙は、子どもサバイバル訓練のようす。災害時に必要なものがないという想定で、朝からサバイバルクッキング。災害時には知恵と工夫が大事です。午後からもたくさんの訓練が。暑い中、保護者の皆さんもお疲れさまでした。こういった機会に、災害への備えについて家族で話し合っただけだと思います。訓練終わりには、クワガタをプレゼント。子どもたちは笑顔で訓練を締めくくりました。（広報担当S）



全国を巡回する 安曇川町田中出土の馬具

発掘調査は、日本各地で毎年約1万件近く行われ、日々新たな発見の報告がされています。このうち特に注目された最新の発掘資料が、文化庁主催による速報展「発掘された日本列島2011」に集められ、6月からの江戸東京博物館を皮切りに来年2月まで、全国5か所の博物館を巡回し展示されます。

このたび、高島市安曇川町田中に所在する田中36号墳から出土した馬具などが展示されることになり、全国の皆さんに紹介することとなりました。

田中36号墳は、安曇川地域西



部に広がる泰山寺野台地の東端にある田中古墳群のなかのひとつです。近くには、直径約58mの田中王塚古墳（継体天皇の父「彦主人王」陵墓参考地）もあります。田中36号墳は平成19年に発掘が行われ、九州地方の横穴式石室の特徴をもっている埋葬施設が見つかり、九州地域との関連性が考えられています（詳細は「広報たかしまNo56号」をご覧ください）。

ここでは、今回の「日本列島展2011」に展示される田中36号墳出土の馬具について、詳しく紹介します。

展示される馬具は、人が馬を操るために装着させる道具で、4世紀頃に朝鮮半島から馬と共に伝わってきたものです。軍事や行事などに欠くことのできない大切なものとして、6世紀になると大きな権力をもつ首長や有力者は、その権威付けとして多くの馬と、よ



田中36号墳出土の馬具

り優美な馬具を所有するようになります。

田中36号墳の馬具は、鐘形鏡板（かねがたかぎいた）と呼ばれる、馬の口に取り付ける轡（わづ）のなかで特に装飾が豊かなものです。薄い鉄板に銅板を張り、金メッキを施す技法で造られ、金色に輝く乗馬用の金具です。実物はサビてしまっていますが、一部に金箔が残ります。

これら金銅製の馬具は、畿内の

大和政権のもとで製造され、地方の有力者に配られたものと考えられています。この鏡板は他に類例のない珍しい形のもですが、この馬具を所有した人物は、畿内の大和政権や九州地域とのかかわりを持ちながら、高島・安曇川地域の首長として巧みな乗馬で兵士を統率し、この地域を支配していたのではないのでしょうか。

編集者のつぶやき

表紙は、マキノ西小で開催された、元全日本バレーボール選手江藤直美さんによる特別授業のようすです。遊びを取り入れた練習を楽しみながら取り組む子どもたち。はじける笑顔に元気をもらいました。

今回の特集は、子育てについて。市で行っている支援サービスを紹介していますので、ご活用ください。私は現在初めての子育てに奮闘中です。楽しみながら子育てできるとよいですね。（広報担当S）

（文化財課）

『発掘された日本列島展2011』は、以下の会場を巡回します。

- ・6月11日～7月31日
江戸東京博物館
- ・8月9日～9月11日
新潟市歴史博物館
- ・9月23日～10月30日
静岡市立登呂博物館
- ・11月15日～12月18日
九州歴史資料館
- ・平成24年1月2日～2月14日
高知県立歴史民俗資料館

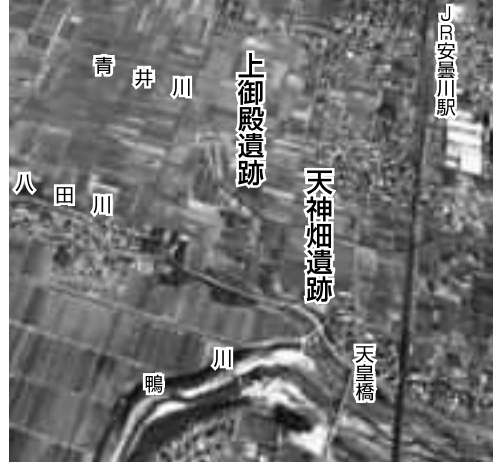


天神畑・上御殿遺跡とは

遺跡とは、私たちの遠い祖先の人々が土地に刻んだ記録といえます。遺跡には、住居跡や古墳・墓、ありとあらゆるモノが含まれていて、そこから出土したモノを遺物、検出された跡を遺構と呼び分けています。高島市内にも約400か所ほどの遺跡が確認されています。それらの中には、集落跡・生産跡・寺院跡・城跡・古墳・墓など多彩であります。

天神畑・上御殿遺跡は、高島市の南部、鴨川が大きくその流れを東に曲げる北側、集落としては、今の北鴨から三尾里にかけての西に位置します。発見のきっかけは、特に天神

畑・城跡・古墳・墓など多彩であります。天神畑・上御殿遺跡は、高島市の南部、鴨川が大きくその流れを東に曲げる北側、集落としては、今の北鴨から三尾里にかけての西に位置します。発見のきっかけは、特に天神



畑遺跡において、田地の掘削中に完形の土器が出土したところからと聞いています。まさに、遺跡の発見は偶然の賜物といえます。

今回の発掘調査は、青井川の改修工事に伴う事前埋蔵文化財調査ということで、平成20年度から滋賀県教育委員会・(財)滋賀県文化財保護協会によって実施されました。

この遺跡群の調査からわかったことを、古い順からならべてみますと、先ず最初に今から約1700年前、弥生時代から古墳時代にかけての墓や竪穴住居跡の検出にはじまって、大壁造り建物と学術用語で呼ばれている壁立ちの一边が約10mほどの建物跡が検出されました。この建物のルーツは朝鮮半島にあり、渡来系の人たちが持ち込んだ建築様式が、高島の地にもいち早く伝えられたことを暗示しています。

次に、奈良時代から平安時代に至っては、倉庫群や掘立柱建物群などが検出され、進んだ文化が流入し、人々が生活していたことが分かります。

また、鎌倉時代から室町時代にかけては、薄板に仏教のお経(金剛般若波羅蜜経)を記した「こけら経」の残片が出土したり、鎌倉時代の完全な鉄製

轡(馬具)が出土し、私たちが驚かせました。

ここから初夢のごとくこの遺跡群のイメージを膨らませていきますと、まず始めに、今からおおよそ1700年前に、鴨川の左岸のほとりに人が住み始め、しばらくすると朝鮮半島から新しい生活文化を持った人たちが移って来、次に南市東遺跡や下五反田遺跡、八反田遺跡へと拡散して行ったようです。

奈良時代になると、都から北陸へ向かう官道の北陸道が近くを通り、人々の往来が頻繁になり、倉庫群を構えた村が形成されていきました。

鎌倉時代から室町時代には、仏教文化の一つ「こけら経」や馬事文化の貴重な轡も、この地に入ってきました。しかし、それ以後、遺跡には人の痕跡は見られません。

遺跡の発掘調査は今後も継続されて行くことから、これからも新しい発見があることを、私たちは期待します。

図 高島歴史民俗資料館
036(36)1553

編集者のつぶやき

表紙は、マキノ北小学校で行われたマキノ東小学校との合同書き初め練習のようす。「お正月」や「日の出」など、新年らしい言葉が筆で力強く書かれました。筆で書かれたといえ、平成23年を表す漢字「絆」。選ばれた理由は、大震災をきっかけに、家族や友人、地域のつながりの大切さを再認識された方が多かったからとのこと。年が変わっても、この「絆」は大事にしたいですね。皆さんにとって今年も良い年でありますように。(広報担当S)



▲御殿川から望む遺跡群

黄泉の国への訪問話

新旭町出土 蛤入りの土器

日本最古の歴史書とされる『古事記』には、「黄泉の国」を舞台にした伊邪那岐命と伊邪那美命の男女の神の物語が書かれています。神話の内容は次のとおりです。イザナキとイザナミは、国造りを進めていましたが、火の神を



蛤入り高杯

生み落とす時、イザナミは火傷を負い亡くなります。イザナキは、大そう悲しみ、失望の念からイザナミを追って黄泉の国に向かい、「現世に戻る」と懇願しますが、イザナミは「ヨモツヘグイ」を済ませたので戻ることができないという下りがあります。

「ヨモツヘグイ」とは、「黄泉戸喫」と書き、黄泉の国で煮炊きしたものを食べることをいいます。そのことは黄泉の国の住民となったことを示し、現世にはもう戻ることができないことを表わしています。この神話の内容は、今から1500年前頃の古墳時代の横穴式石室での様子を描写したものといわれています。



三葉環頭大刀

ています。

高島市新旭町安養寺地先に所在した二子塚古墳は、昭和30年代の開墾により消滅しましたが、この開墾の際に、数個の蛤が入った高杯や鉄製の三葉環頭大刀が採集されています。朝鮮半島で造られた大刀や海辺で捕れた蛤を副葬することから、二子塚古墳に埋葬された被葬者の交流が日本海におよぶことを物語っており、この地域を治めていた有力者の古墳と推定されています。

れます。

二子塚古墳から出土した蛤入りの高杯は、被葬者に「ヨモツヘグイ」として供えられたものと考えられ、古事記に描かれた神話の様子を今に伝える大変貴重な資料です。

蛤入り高杯と三葉環頭大刀は、現在、安土城考古博物館で開催中の『湖を見つめた王 継体大王と琵琶湖』（6月17日まで）に出品展示中です。

文化財課

☎(32) 4467

編集者のつぶやき

表紙は、高島市国際協会主催の「世界に発信 虹いろ柿渋手描き染めワークショップ」のようす。講師は、世界で活躍されている染色家 山本玄匠さん。国際舞台での体験談を交えたお話のあと、柿渋染めの体験が行われ、参加者は思い通りのデザインでオリジナルTシャツづくりに挑戦されました。それぞれ個性のある模様は、見ていだけでも興味深く楽しめました。完成品は後日受取とのこと。さて、どんな仕上がりに？ (広報担当S)



広報たかしま

平成24年

6

月号
No.149

発行▼高島市 編集▼政策部企画広報課
〒500-0100 滋賀県高島市新旭町北畑のふの番地

☎0740 (25) 8000(代)
http://www.city.takashima.shiga.jp
t:info@city.takashima.shiga.jp



湖西中学校 展示の様子

湖西中学校の正面玄関を入ると、生徒たちの活躍の歴史や他校との交流を物語る多くのトロフィーや賞状などと共に、中学校が保管している土器等が展示されています。

生徒たちが発見した 湖西中学校保管の土器展示

ています。

土器は、新旭地域で採取されたもので、そのほとんどが先生や生徒、保護者の方々によって発見され、今日まで大切に保管、展示されてきたものです。

主な展示物は、湖西中学校のグラウンドから出土したものや、新旭地域の湖岸や丘陵部に所在する遺跡から出土したもので、中には完全な形（完形品）で発見された重要なものも存在します。展示されている土器のひとつには、昭和30年代前後の中学校グラウンド工事の際に出土し、採取したものであることがわかるように、土器表面に注記されています。

これらの発見を受けて、昭和45年には湖西線建設工事に伴い新旭駅周辺で初めて堀川遺跡の発掘調査が実施され、それ以来、多くの発掘調査が

湖西中学校運動場から
出土した土器

実施されてきました。これまでの調査により、遺跡の範囲は、南北約700m×東西約500mと広がり、弥生時代から鎌倉時代にかけての建物跡などが見つかったいます。

また、同じ遺跡内には、近世まで続く阿弥陀寺遺跡も含まれることから、この地域は、弥生時代から近世まで継続的に集落が営まれ、安曇川左岸地域において重要な地域であったことが判明しています。学校から出土した土器は、地域の歴史を解明するきっかけとなる発見でした。

この他、湖西中学校には、高島市内で最も古い瓦が出土している飛鳥・白鳳時代の古代寺院跡である大宝寺遺跡の古瓦の破片や、弥生時代の集落として市内では、最も古い時期に位置付けられている針江浜遺跡採取の土器など、地域の歴史を語る上で貴重な埋蔵文化財が保管されています。

文化財課では、これら貴重な資料をより良く保存・展示し、地域の歴史学習にも利用してもらうために展示内容をリニューアルさせていただきました。

文化財課

☎ (32) 4467

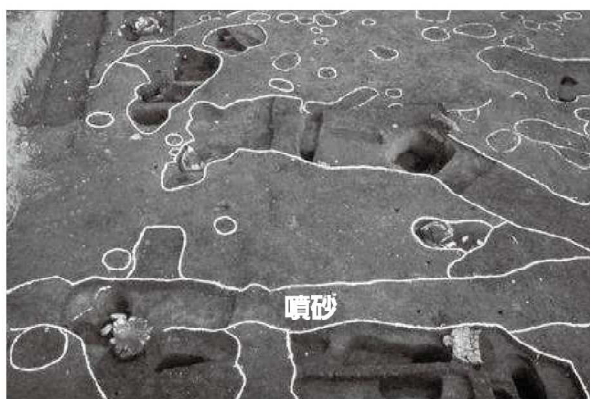
編集者のつぶやき

新年明けましておめでとうございます。▼表紙は、今津東小学校で行われた注連縄づくりのようす。地域のボランティアの方に教えてもらいながら、子どもたちは一生懸命にしめ縄を作っていました。このような伝統文化を継承していく教育は大事ですね。特集は、来年12月に上演予定の第3弾市民劇の題材となった新旭町出身の教育者「清水安三」をご紹介します。どのような劇になるか今から楽しみです。

(広報担当S)

発掘された地震跡

北仰西海道遺跡は、今津町北仰集落の東の水田（現在はグラウンド）に位置しています。昭和59年度から61年度にかけ実施した発掘調査で、縄文時代後期から弥生時代後期にかけての大規模な集団墓地が発見されました。



北仰西海道遺跡縄文墓を切る噴砂

この調査のなかで遺跡の中心部分とみられる位置から、最大幅95センチ、長さ31メートルの南北に走る砂の詰まった溝状の遺構が発見されました。溝の内部は細かい砂で満たされ、遺物を全く含まず、

50センチ程掘りさげると末広がりになっており、その正体について首をかしげていました。

昭和61年5月、江戸時代の地震史料を調べに今津町を訪れていた当時の通産省 地質調査所の寒川旭さんに偶然出会い、雑談のなかで「遺跡の中から地震の跡がでるとしたら、どんな形になりますか」と尋ねてみました。いくつかの答えの中に「砂の詰まった割れ目」があり、ピンとききました。すぐに二人で現場に向かい、地震時の液化現象による「噴砂」であることが判明しました。さらに遺跡は一千年以上と長期にわたり営まれており、その中心部で検出されたことから噴砂によって引き裂かれた遺構や、地震後に噴砂上に営まれた遺構などがあり、おおよその地震の発生時期を特定することができました。この調査がきっかけで県内をはじめ全国の遺跡から地震の痕跡が次々に見つかるようになりました。遺跡の発掘調査の中で地震の痕跡を調べることにによって古文書などの記録のない時代の

地震や、古文書等に記された地震の規模や被害状況などを探るのに非常に有効であるとして昭和63年には「地震考古学」という新しい研究がスタートしました。

平成7年1月17日に起こった兵庫県南部地震以降、国は全国の活断層の活動履歴調査を行っています。高島市内でも琵琶湖の西岸をほぼ全域にわたって南北に延びる長さ約60キロメートルの西傾斜の逆断層である琵琶湖西岸断層帯の酒波断層や饗庭野断層、花折断層などの調査が行われました。

最新の研究成果では、2つの断層とも最新の活動に関する限り、北部と南部では活動時期が異なっていると考えられています。

高島市内にも大きな被害があった寛文2年（1662）の地震は花折断層北部が、元暦2年（1185）の地震は琵琶湖西岸断層帯南部の堅田断層などが活動したと考えられています。饗庭野断層などの北部については、最新の活動は3000〜2400年前と考えられており、北仰西海道遺跡で検出された噴砂もこの時に発生した可能性があります。

平成15年6月に発表された琵琶湖西岸断層帯でマグニチュード

7・8級の地震の起きる可能性を向こう30年間に0・09〜9%の確率とされていましたが、平成21年8月に見直しがなされ高島市域の北部の確率を1〜3%、大津市域の南部をほぼ0%と改訂しています。

図文化財課

☎(32) 4467



北仰西海道遺跡航空写真

編集感

今年も暑い夏がやってきました。日中外に出ると、汗が噴き出て、ちょっと動だけでバテてきます。皆さん体調は大丈夫でしょうか？表紙の写真は、朽木で行われた鮎の放流の様子。元気いっぱい子どもたちに交じって、川に足をつけながら撮影しました。冷たい川が大変心地よかったです。今年は千年に一度の猛暑になるという話もあるそうです。熱中症にならないよう気を付けながら、夏を乗り切りましょう。(S)



広報たかしま

平成25年

8

月号
No.163

発行▼高島市 編集▼政策部企画広報課
〒500-1000 滋賀県高島市新旭町北畑のふ番地

☎0740(25) 8000(代)
http://www.city.takashima.shiga.jp
E: info@city.takashima.shiga.jp



東京国立博物館と馬塚古墳

東京上野にある東京国立博物館は、明治5（1872）年に創設された日本最初の博物館です。日本と東洋の美術品や考古資料の収集保管、展示、調査研究を目的としており、国宝や重要文化財など多くの資料が所蔵されています。

この東京国立博物館には、高島市音羽字馬塚に所在する「馬塚古墳」で出土したとされる土器が所蔵されています（写真1）。残された記録には、「出土地：高島郡大溝町大字音羽小字馬塚27番地の

2、発見年月日：昭和10（1935）年2月15日、受理次第：昭和11（1936）年6月10日 滋賀県より購入」と記載されており、馬塚古墳は早くから認識されていたことがわかります。

昭和60（1985）年には、ほ場整備に伴う本格的な発掘調査が実施されています。当時の馬塚古墳は、畑地に15メートル×12メートルの長方形の土盛りと石室の石材が残っていました。調査では、周溝とよばれる古墳の外側をめぐる溝と土器（須恵器）が出土し、6世紀後半の直径28メートルを測る円墳であることがわかりました。

昨年10月には、隣接するしろふじ保育園のグラウンド拡張に伴い、これまで未調査であった土盛り範囲を中心に調査が実施されました（写真2）。この範囲は、古墳のほぼ中央に当たり、大

きな石材が露出することから、「横穴式石室」の存在が想定されました。調査は、石室の残存状況の確認を主な目的としていましたが、元の位置を留めている石材は確認できませんでした。出土した石材には、くさびの跡を残し割られた石が多かったことから、石室石材は石取りによって、多くが持ち出されていることが判りました。出土した土器には、本来は横穴式石室に副葬されていた須恵器の破片が多く含まれていたことから、石取りの影響は石室の内部まで及んでいたものと考えられます。東京国立博物館には、石取りの際に完全な形で出土した土器が所蔵され、割れて破片となった土器は破棄してしまったのかも知れません。

これ以外にも東京国立博物館には、高島郡勝野村出土品や水尾村大字鴨字宿鴨稲荷山と記録される資料が明治時代に所蔵されています。これらの資料がどのような経緯で所蔵されるに至ったかは定か

ではありませんが、大切に後世に引き継ごうとした高島の先人の想いが、今日に伝わる考古資料でもあります。

図文化財課 ☎（32）4467



(写真2) 馬塚古墳発掘調査風景

編集感

表紙は、1月5日（日）に行われた高島市合同出初式の様子。市内消防団をはじめ、陸上・航空自衛隊、消防本部から508人が参加されました。市民会館での式典の後は、消防車両28台による防火パレードや今津浜での一斉放水訓練を実施。雪が残り大変寒い中、団員の皆さんは寒そうなようすも見せず、懸命に訓練に取り組まれました。昨年は火事が多く発生しましたが、今年はないことを祈ります。火の元には一人ひとりが気を付けましょう。(S)

